都市と文明の歴史 #2

西洋・古代
ギリシア・ローマの都市

2024.04.18

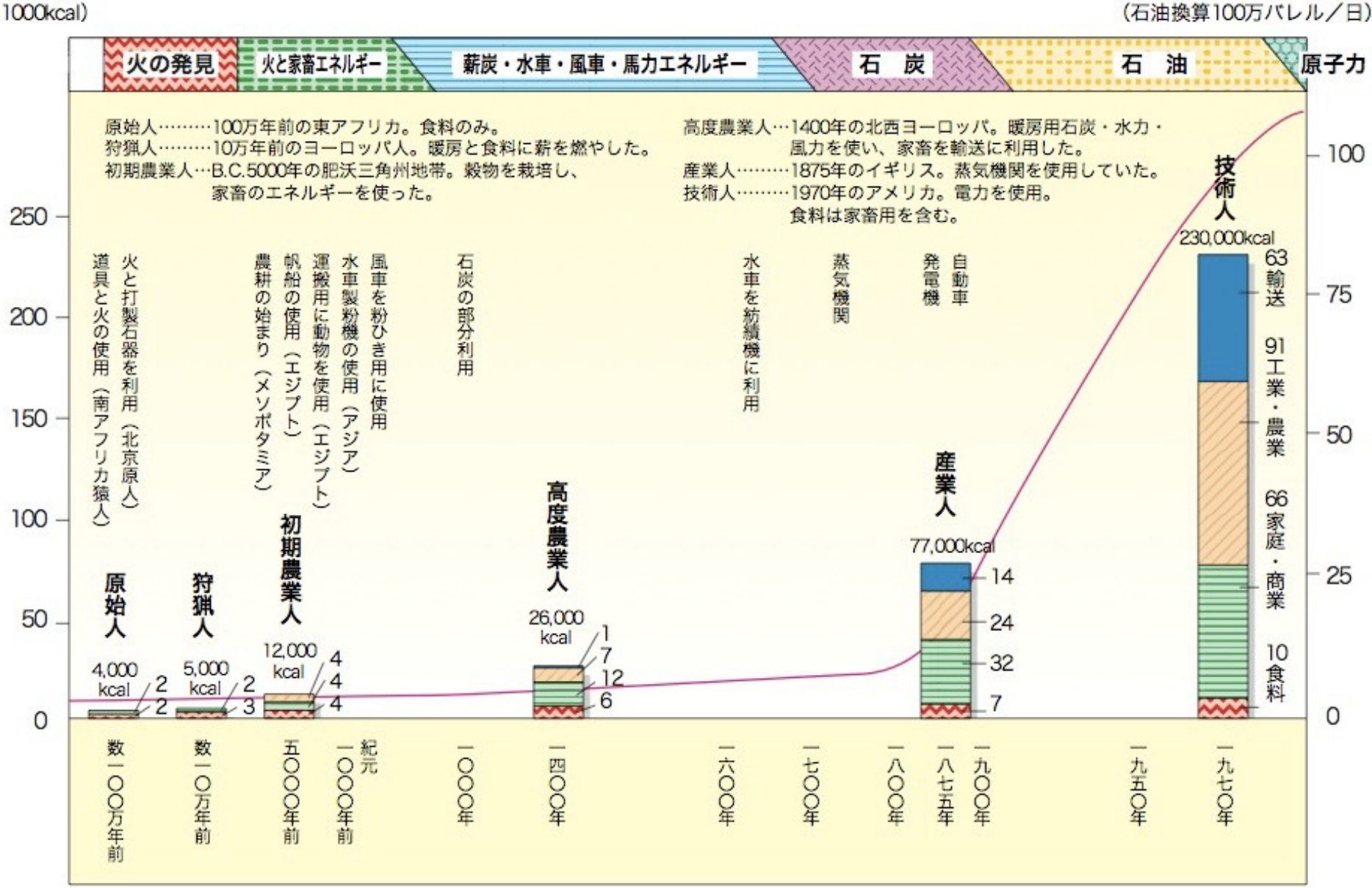
講義の目標

　西洋文明の源流とも言うべき古代のギリシアとローマは、都市や建築の歴史においても、古今の建築家や技術者が立ち戻る原点といえます。

　幾何学的な形態美を重視した建築・都市の姿や、人々が集まる場として街の中心に置かれた広場、巨大構造物とそれを実現する技術や論理など、都市の原点ともいえる古代の都市の概要を理解します。

Keywords

ポリス、アゴラ、アクロポリス、フォルム、コンクリート、ポンペイ



資料：NIRA「エネルギーを考える」に加筆

（注）1．棒グラフ［一人当たりエネルギー消費量］(単位：1000キロカロリー)。

2．曲線グラフ［世界のエネルギー消費量］(単位：石油換算100万バレル／日)。

1.文明（＝都市）の発祥
メソポタミア・エジプト

都市の発生

「採取・狩猟」から「農耕・牧畜」の文明へ

→青銅器・鉄器の発明による食料生産性・武器の発達

→食糧の計画的な生産、増産、貯蔵

→余剰生産物と余力の発生

→定住化と専門家集団の登場

→余剰生産物の増加

→支配層の登場

→統治・支配拠点としての都市の発生

BC3000年頃から

四大文明：肥沃な河川流域地帯での都市文明の誕生

Egypt・Giza

Wikipedia

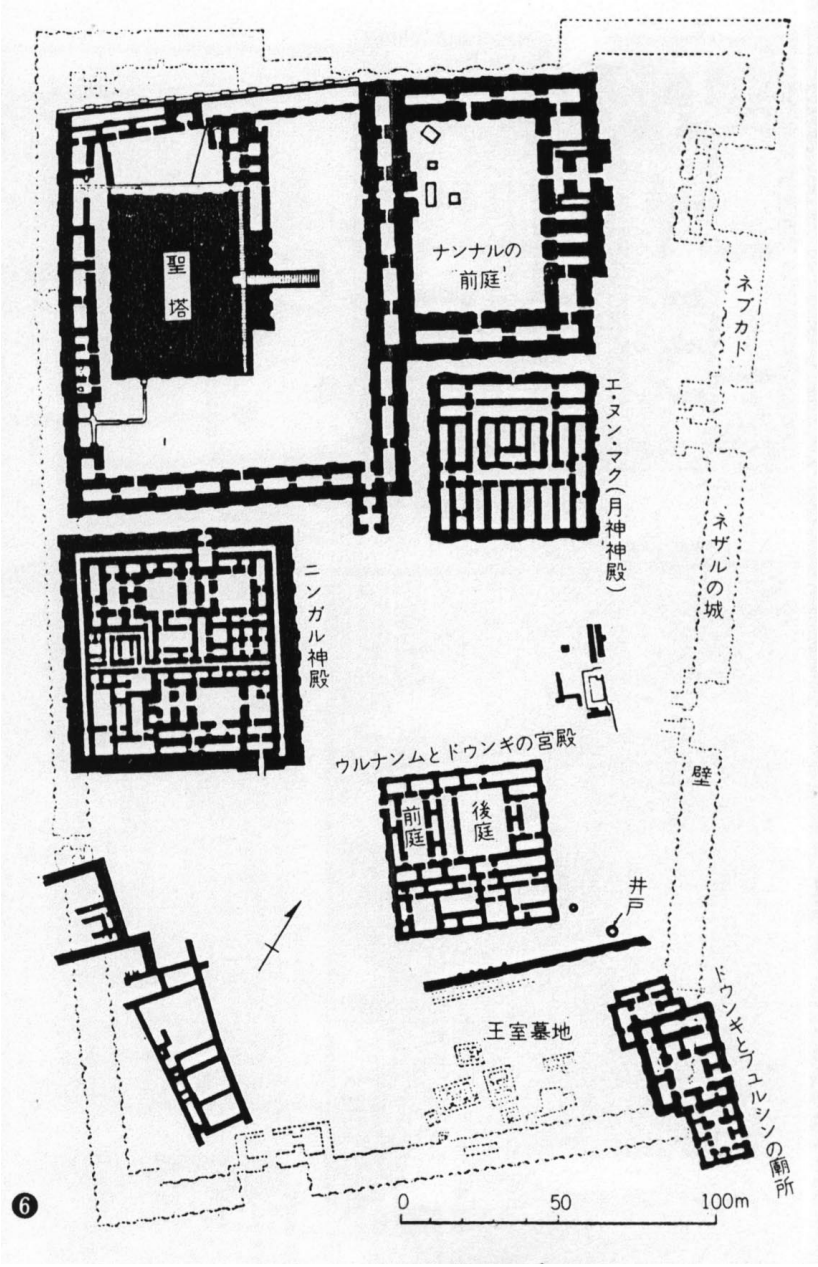
Ur, Iraq

https://www.penn.museum/sites/journal/1356/

Ziggrat

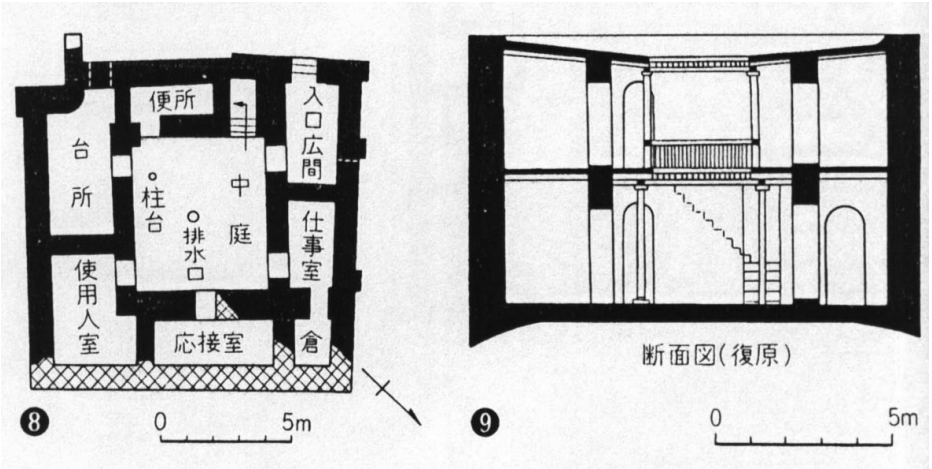
https://latterdaysaintmag.com/article-1-4419/

日本建築学会編，西洋建築史図集，彰国社，p.6



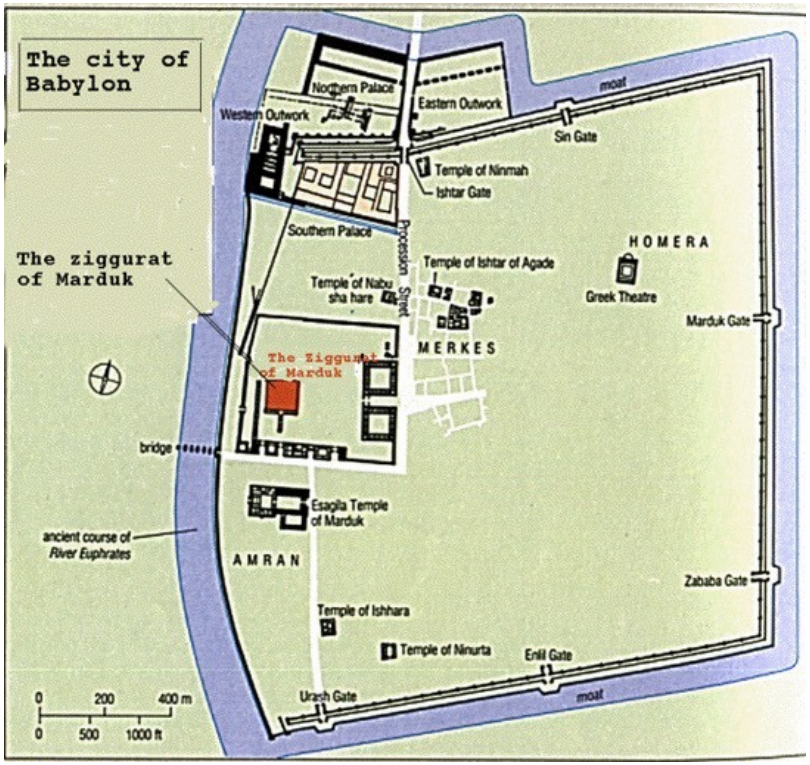
ウル・聖域平面図

ウル・居住区

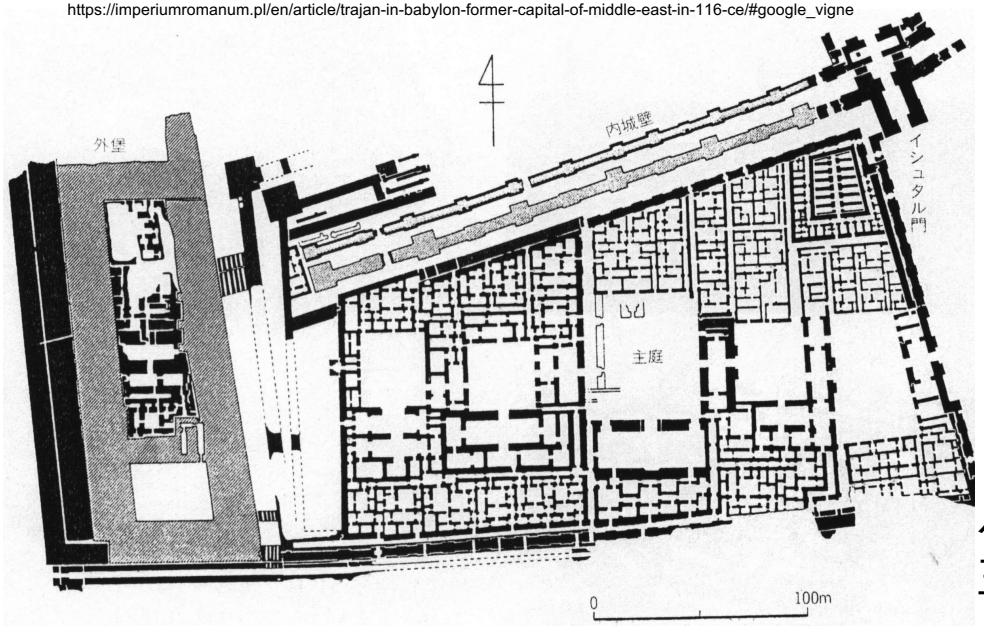


ウル・住居の平面・断面

Babylon



https://imperiumromanum.pl/en/article/trajan-in-babylon-former-capital-of-middle-east-in-116-ce/#google_vigne



バビロン・ネブカドネザル時代の
王宮平面 p.76

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社

２.古代ギリシアの都市

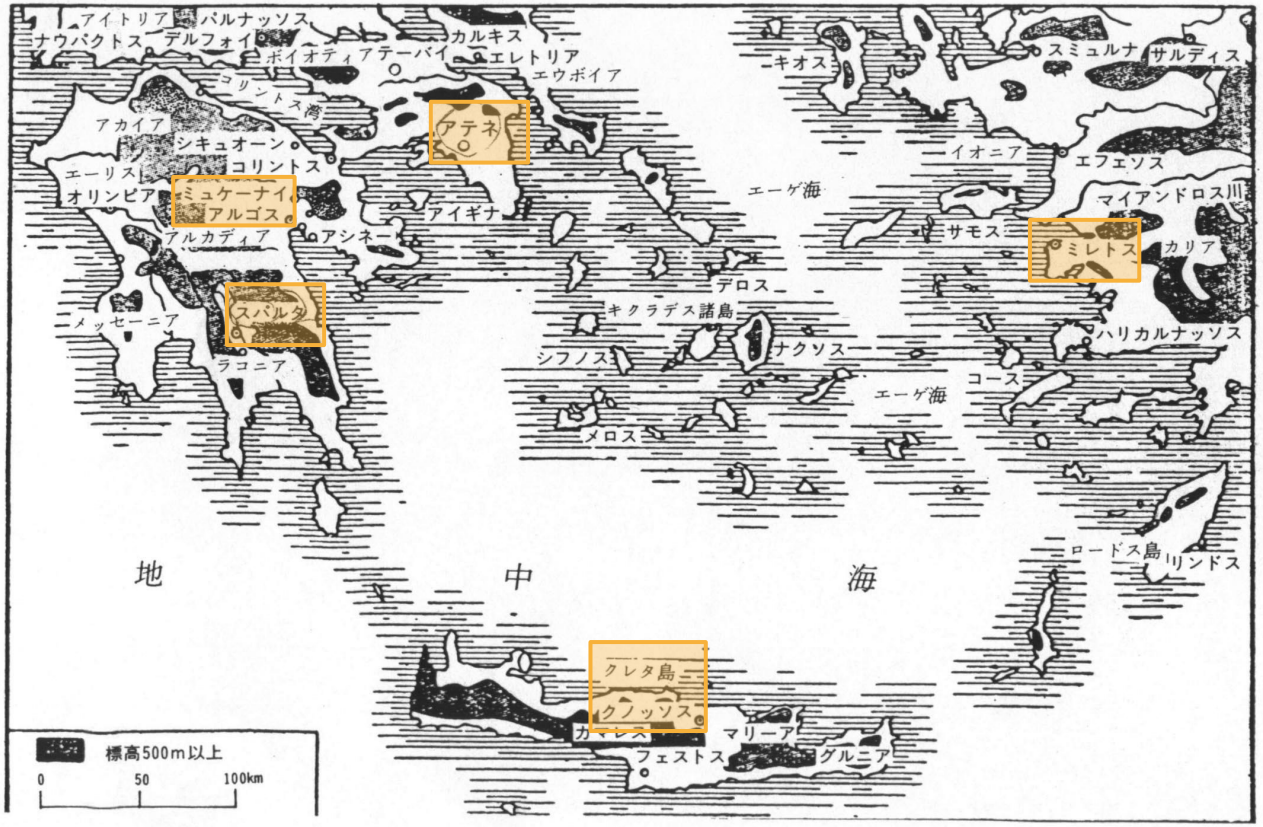
ギリシア・古代エーゲ海

・クレタ文明　王政による都市国家（B.C.2000－）
　クノッソス：城壁をもたない大規模宮殿を中心とした構成

・ミケーネ文明（B.C.1600 － ）
　ミケーネ：堅牢な城壁をめぐらせた城塞都市

・ペロポネソス半島
　ドリス人の侵入
　（B.C.1100）

・都市国家＝ポリス
　polis の成立
　（B.C. 8 C）



L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房，p.56

古代ギリシア

海岸線が入り組んだ地形、狭い耕地＋人口増加、
植民都市の建設、エーゲ海地域への拡大

・アルカイック期（B.C.600－480）
　平民階級が貴族に代わり僭主政治
　アテネ古代民主制B.C.6C末

・クラシック期（B.C.480－323）、
　ペルシア戦争の勝利、デロス同盟の結成、
　各ポリス政治的安定と結束

・ヘレニズム期（B.C.323－31）
　アレクサンドロス大王の死後
　ギリシアとオリエント世界の文化的接触

アテネ　Athens

Polis

Acropolis

Wikipedia

Wikimapia

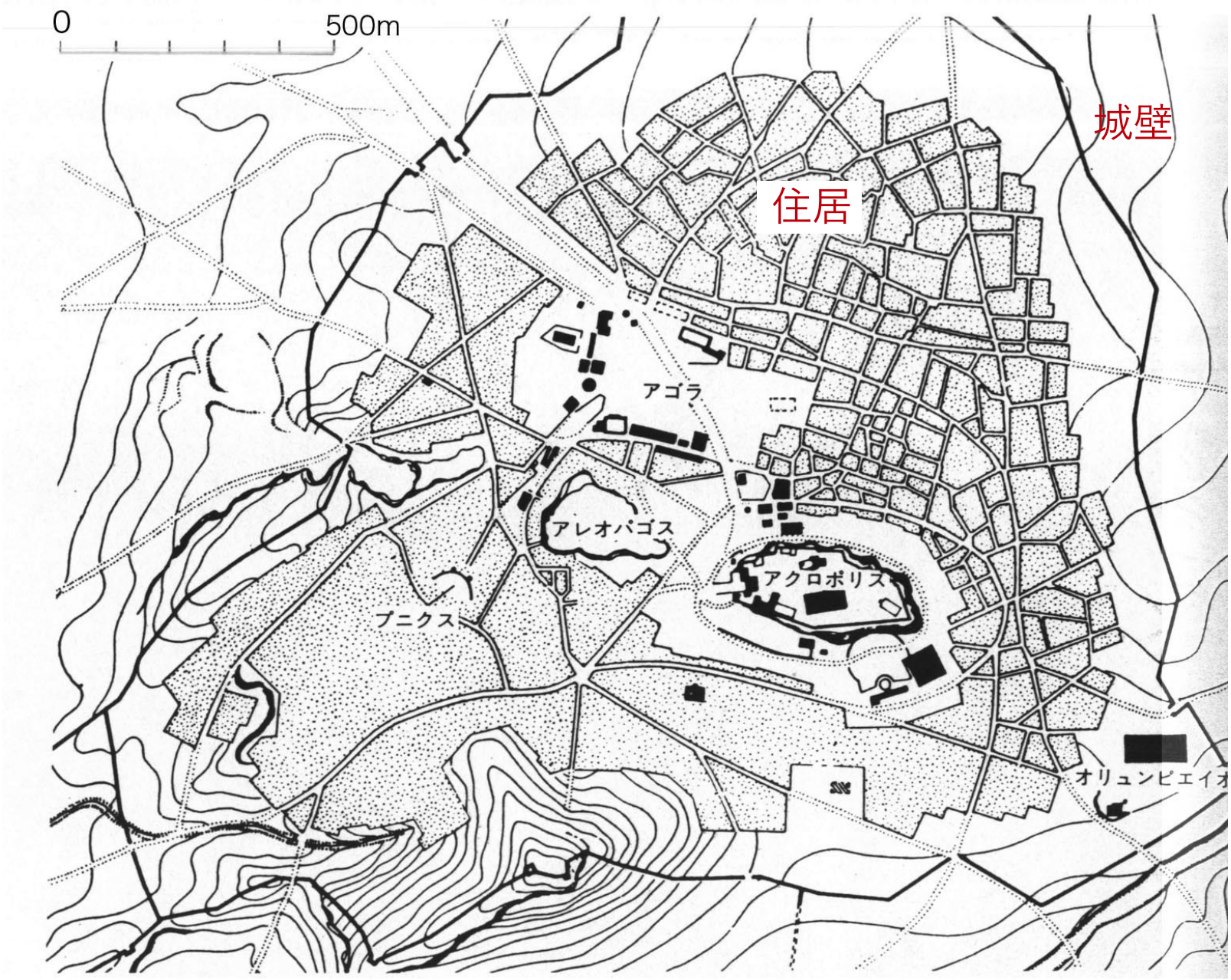
ギリシア・ポリスの都市構造

①単一組織としての都市：
特定の神に捧げられた神域としてのアクロポリスと、すべての市民が集まるアゴラ。これらがひとつの共同体としての都市国家を形成。

②地区の分割：神々の神殿に囲まれた聖域、政治や商業、劇場などの公有地、住居に占められた私有地。

③自然との調和：自然の無秩序さと幾何学的形態による建築の対照的なバランス。

④拡張の抑制：一定の秩序を保ちながら部分的な修正。別の都市や植民都市に拡張。最大でも1万人程度。



ペリクレス時代のアテネ概要地図

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房

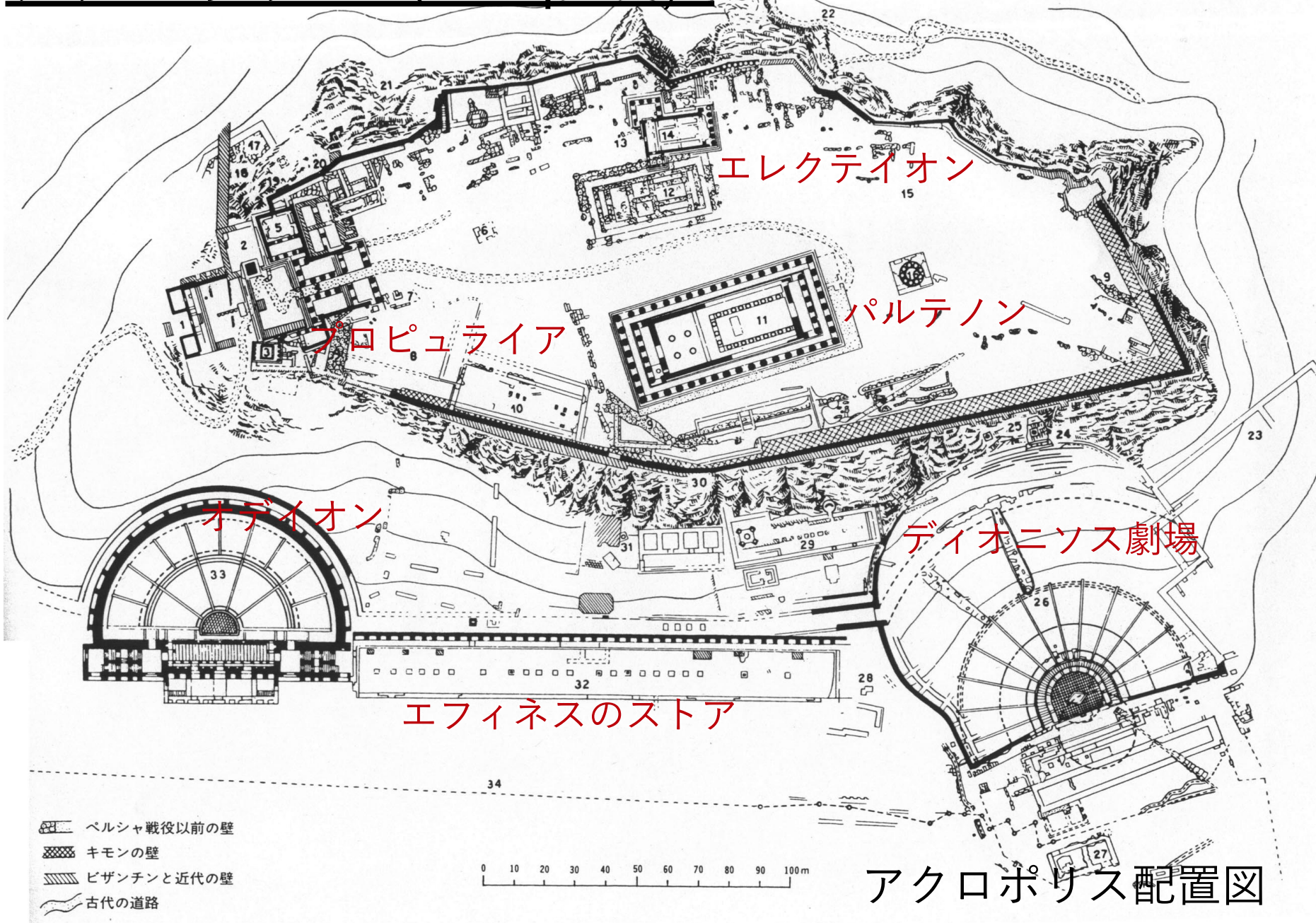
アテネ（Athens）

・政治家・ペリクレス（B.C.495－429）
パルテノン建設
都市税の徴収、雇用を提供する公共事業
市民が居住する範囲がポリス

・徹底的な直接民主制
　市民は自ら軍役に従事し、最高意志決定機関である民会に参加し、部族代表からなる評議会ブーレーによる行政、民衆裁判所による多数決。
　ただし、市民として認められるのは成人男子のみ。女性、外国人、奴隷は含まない。

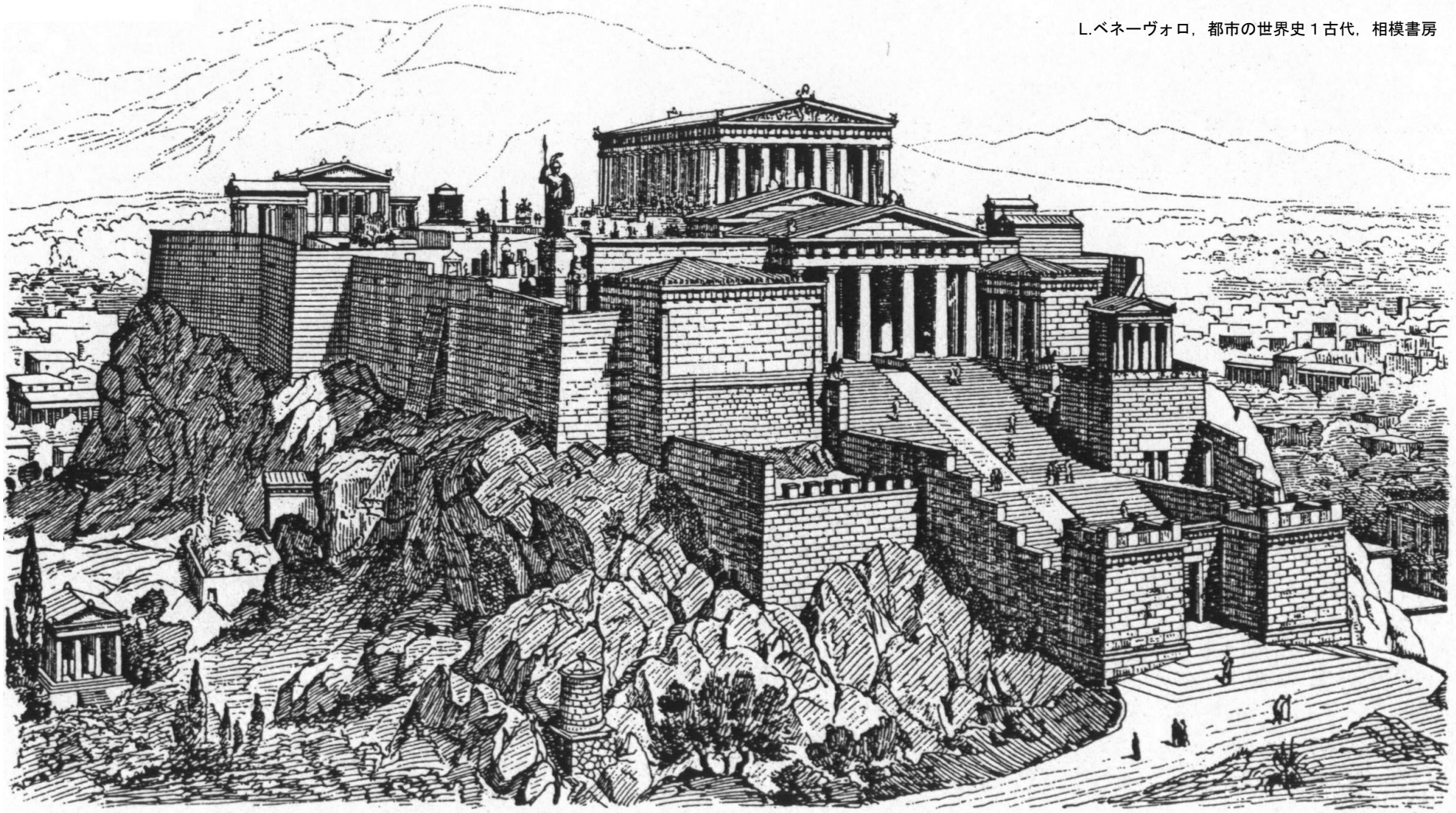
アクロポリス（Acropolis）

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房



アクロポリス配置図

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房



アクロポリス復元図

＝神域、神殿　都市を展望する丘
　都市の精神的中心（神殿）

・パルテノン神殿、エレクティオン、プロピライラ、
地形に応じた様々な位置からの眺望に基づく配置

Wikipedia

Parthenon パルテノン神殿

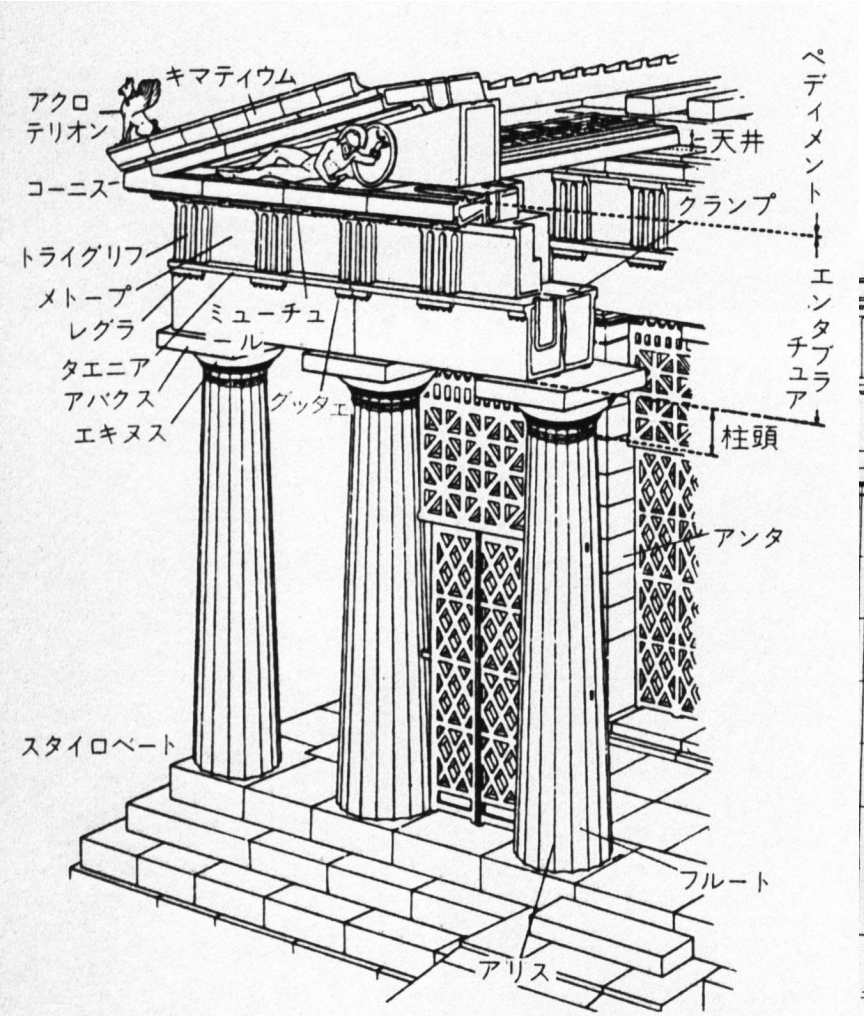
エレクティオン
Erechtheion

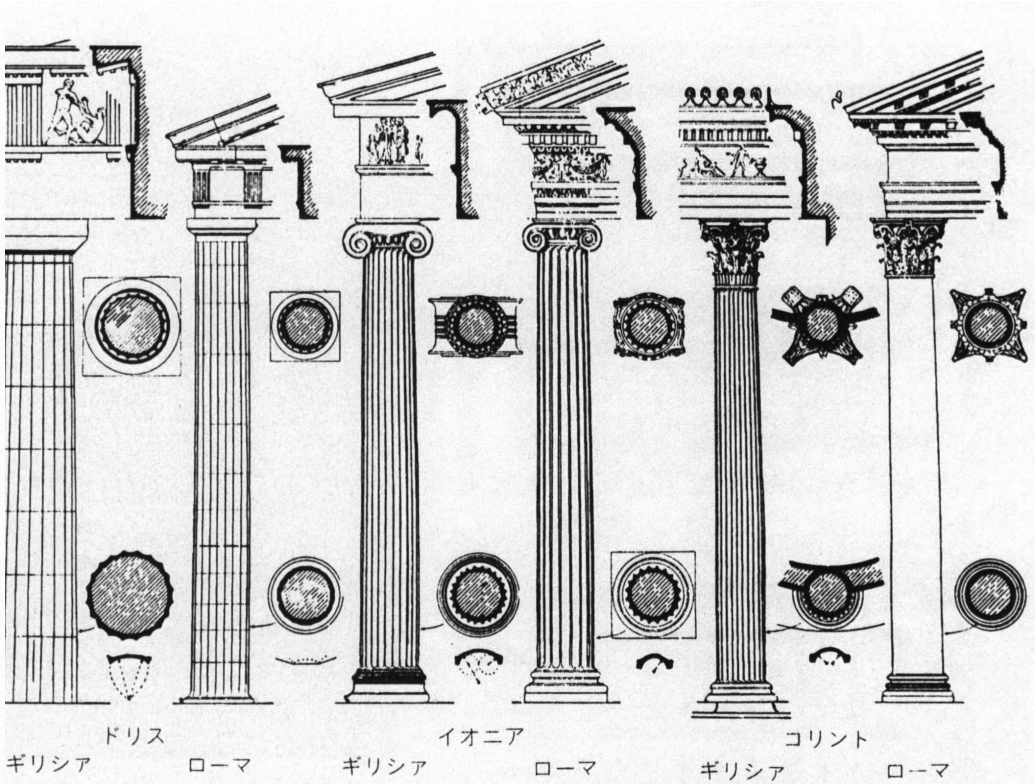
ディオニソス劇場
Dionysus
Wikipedia

Order

円柱と柱頭、エンタブラチュアのデザイン形式と、その比例関係に基づく構成原理
ドリス式、イオニア式、コリント式

日本建築学会編，西洋建築史図集，彰国社，p.11





アゴラ（agora）

☆ アゴラ（agora）＝行政、商業、宗教、社会的な活動のための建築が広場の周りに集積したもの全体。

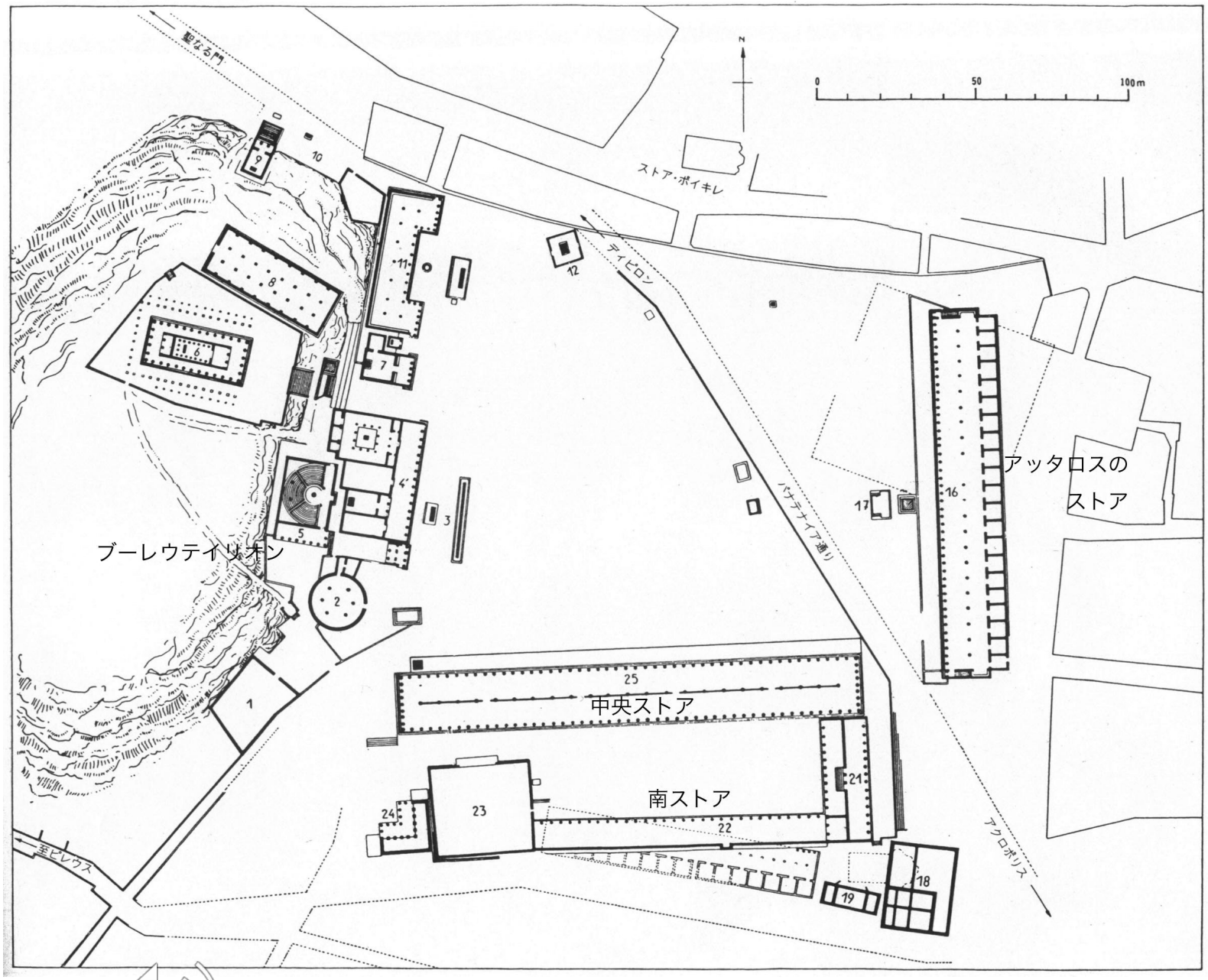
・ストア（stoa）：目的を持たず、分割されず、人間の行為に規定される空間。

・開放的な柱廊に囲まれた広場。オーダーの列柱。

・プリュタネイオン（迎賓館）：かまど。儀式の祭壇とし、外国の客人を接待する場。

・ブーレウテリオン（民会）：民会を代表する貴族や官吏たちがつくる、評議会堂

・裁判所、劇場、体育館、競技場などの公共施設



ヘレニズム末期のアテネ・アゴラ配置図

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房

Stoa

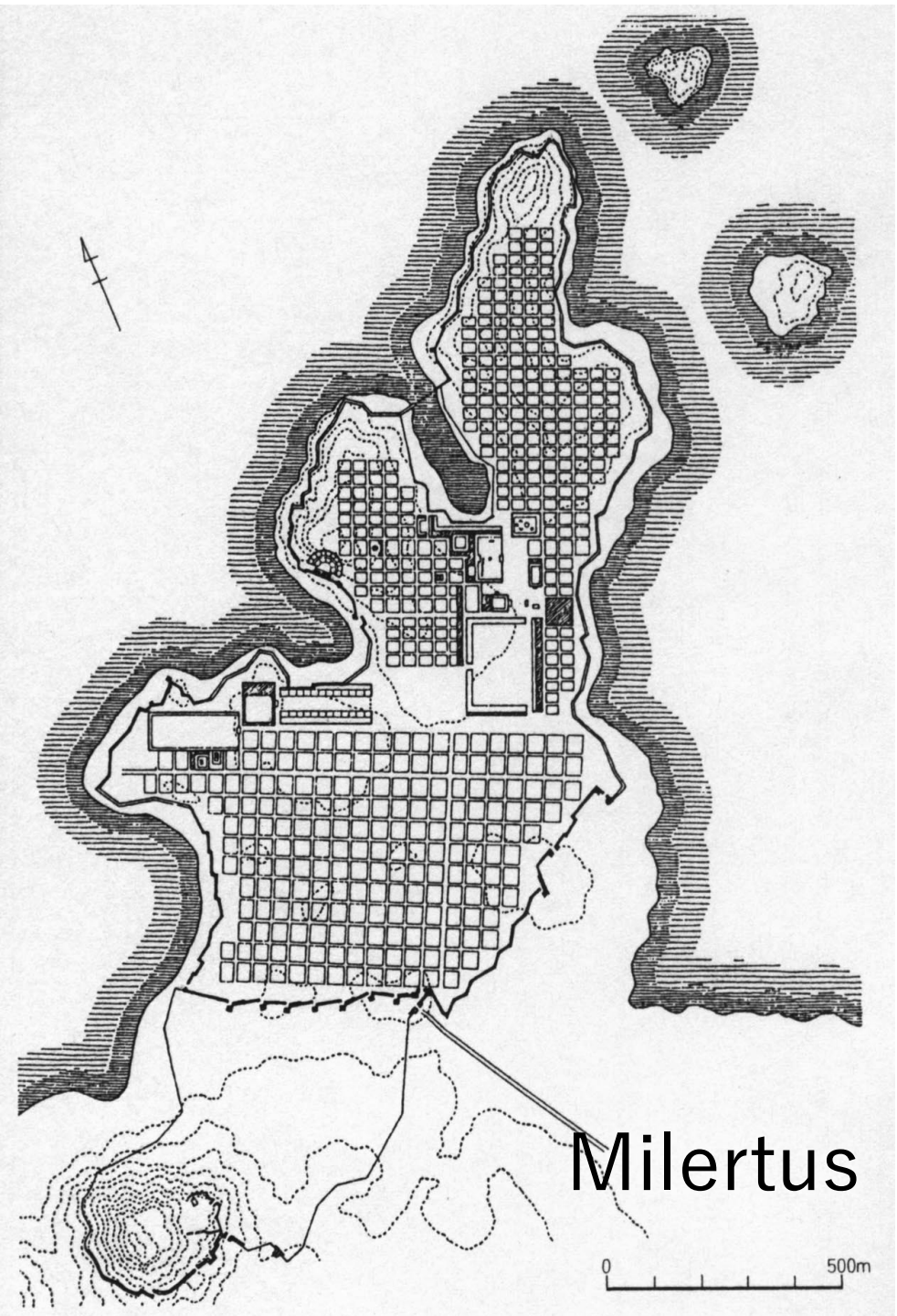
Agora

ラファエロ・サンツィオ『アテネの学堂』

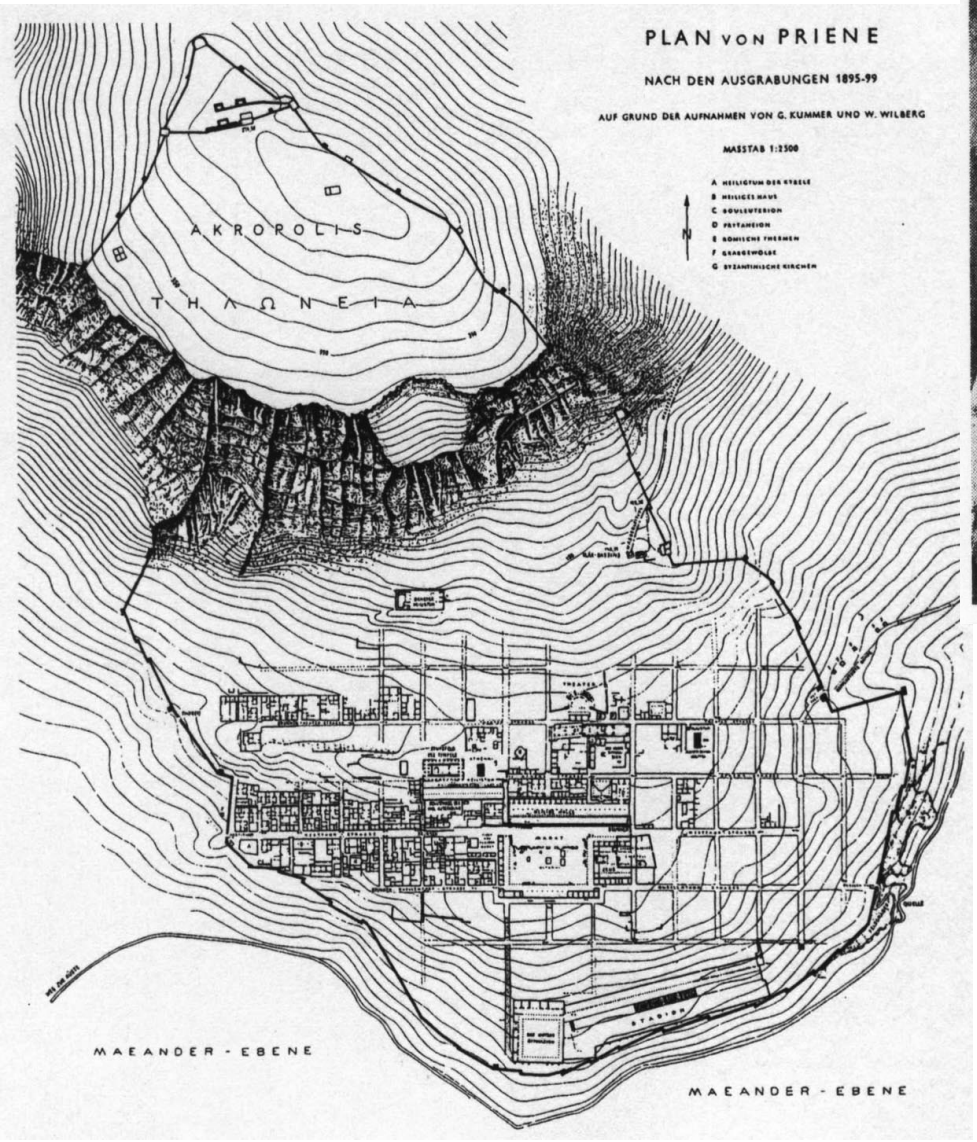
植民都市

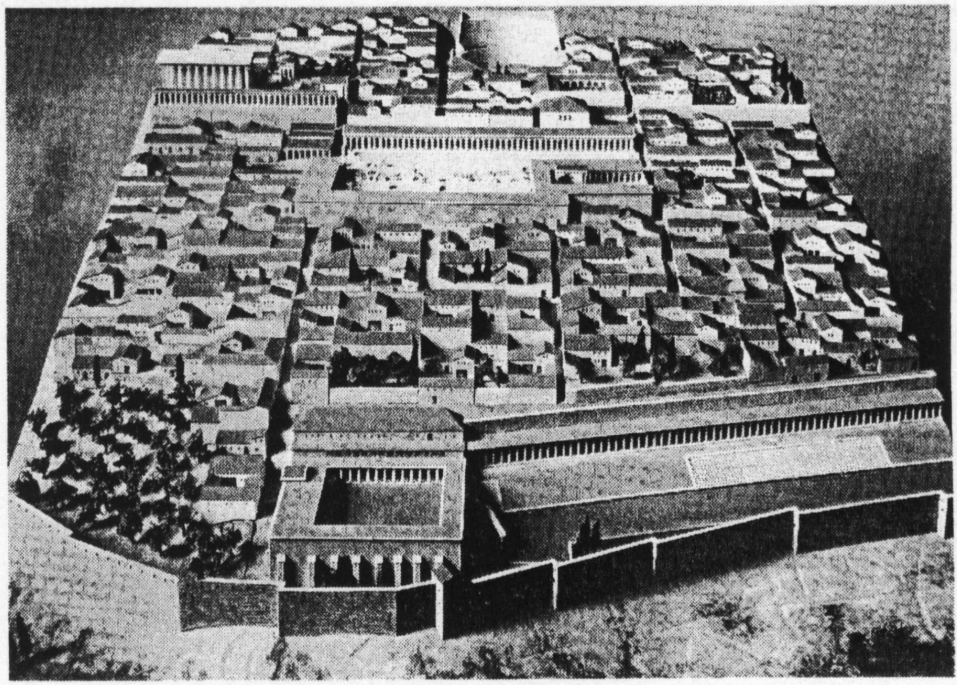
・都市計画家・ヒッポダモス発案といわれる幾何学的格子割りの都市設計
・中心部にアゴラ、周縁の高台にアクロポリス。
・街区ユニットが基本。住居や敷地配置により規模・形状が決定

ミレトス
（Milertus, B.C.5C前半）



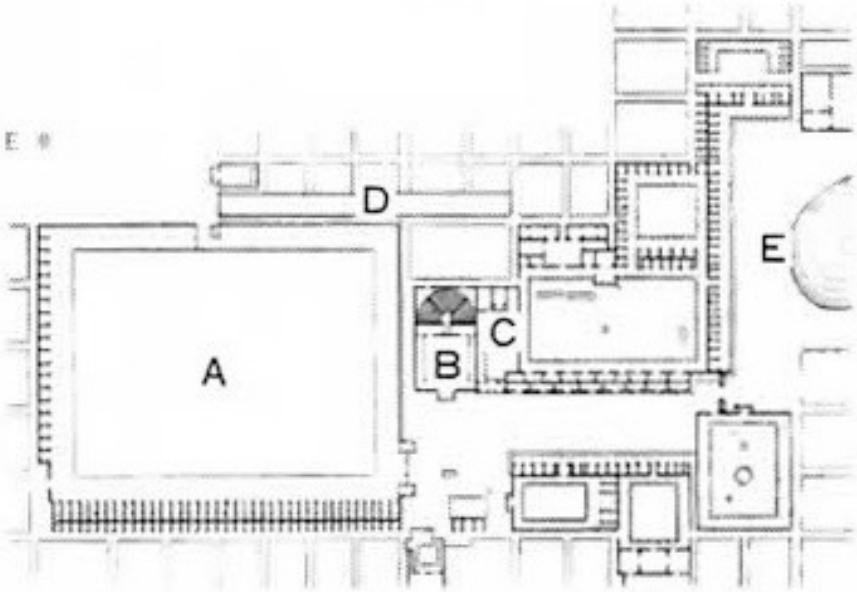
都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.103





プリエネ　Priene
（B.C.350頃）

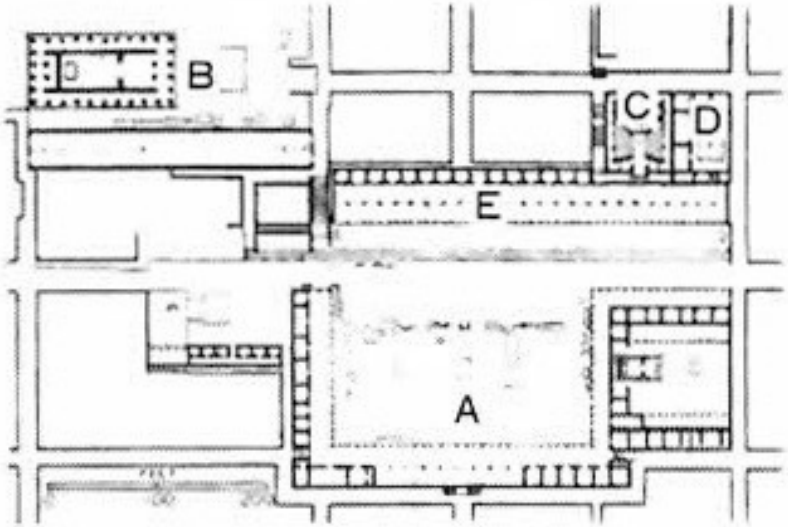
都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.103



A　市場
B　ボウレウテリオン
　（議会）
C　プリュタニューム
　（元老院）
D　ストア
E　港

0　50　100 m

図 2・8　ミレトスのアゴラ



A　市場（まわりをストアが囲む）
B　神殿　　D　元老院
C　集会場　　E　ストア（柱廊）

0　150　300 m

図 2・7　プリエネのアゴラ

R.E.ウィッチャーリー，古代ギリシャの都市構成，p.142

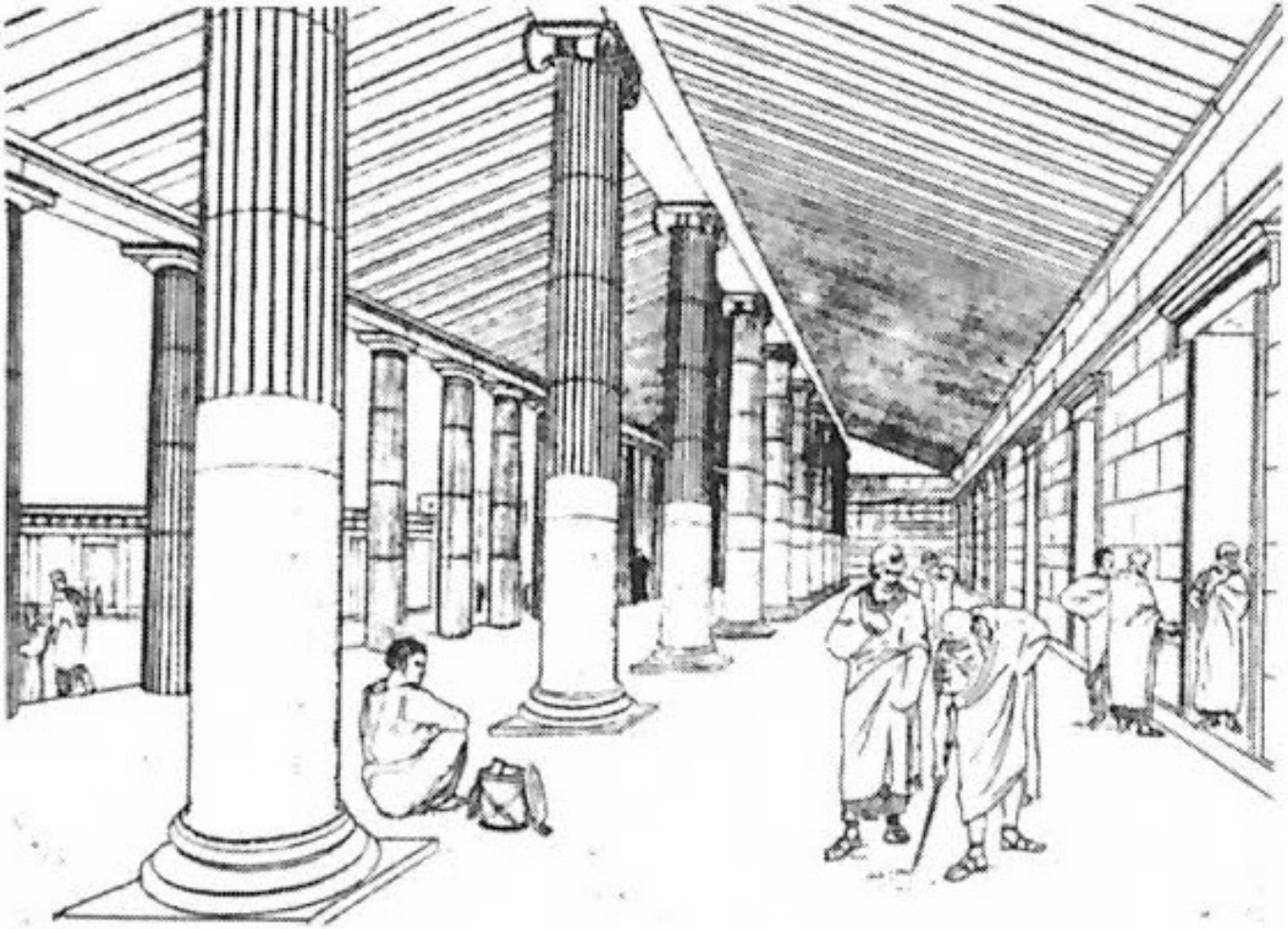
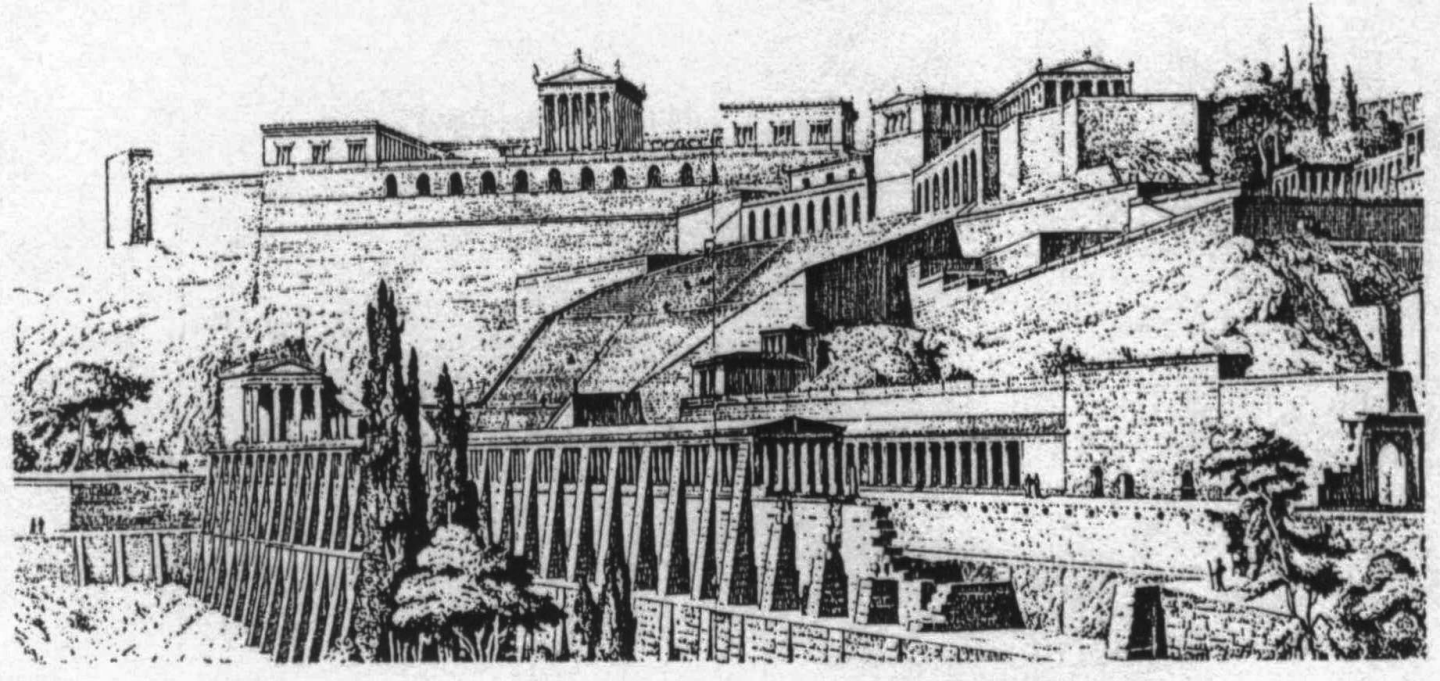
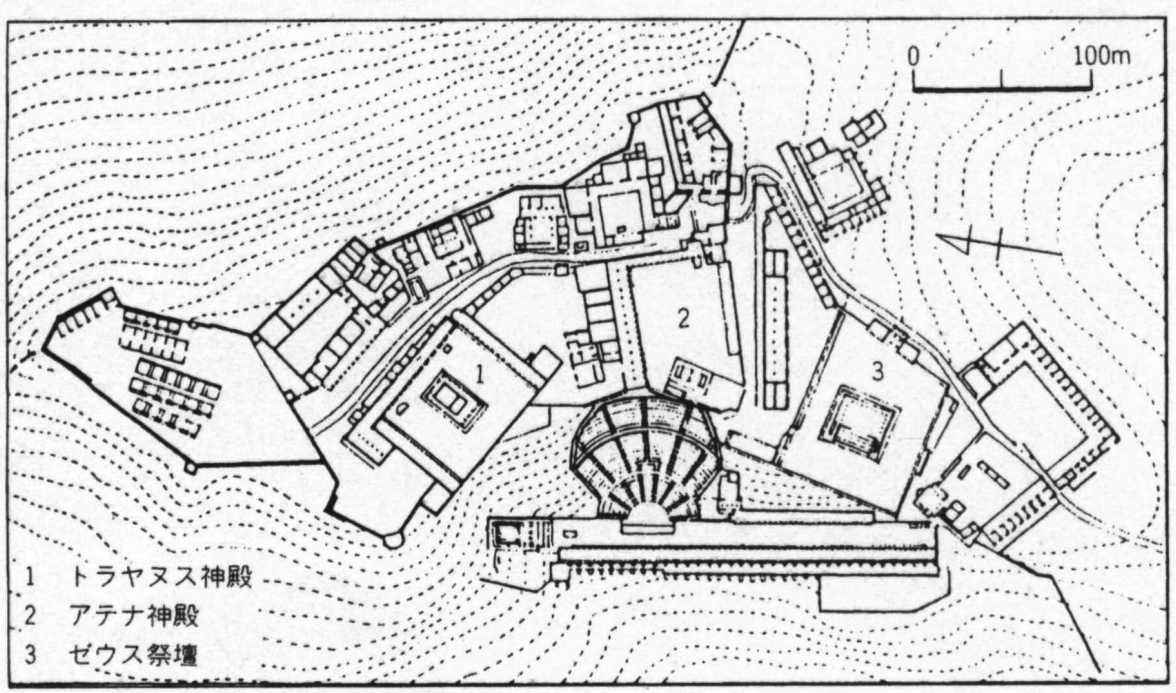


図 2・6　プリエネのストアの復元想像図

出所：R・E・ウィッチャーリー著　小林文次訳（1980）『古代ギリシャの都市構成』142頁





ペルガモン
Pergamon
B.C.3C半ば頃

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.103

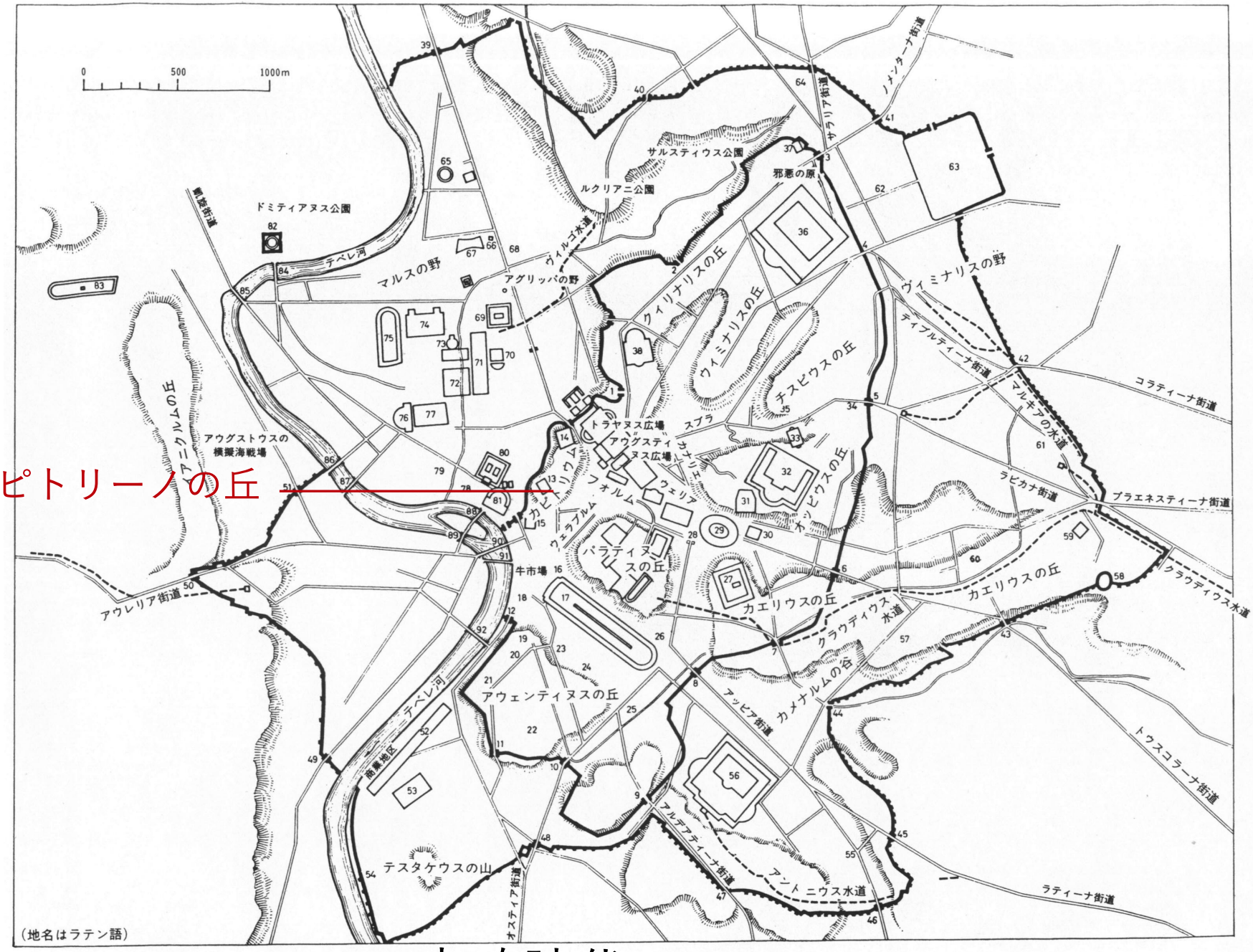
3.古代ローマの都市

フォロ・ロマーノ　Forum　Romanum
Wikipedia

ローマ帝国の歴史的背景

都市国家ローマ（B.C.753）王政
→共和制（B.C.509）
　エトルリア建築の影響、ヘレニズム文化の吸収
→カエサル時代からアウグストゥス時代（B.C.44～14）
　ローマの都市改造・基盤確立
→帝政（B.C.27）地中海沿岸全域の覇権確立
・イギリスから中近東まで世界的大帝国に発展
・帝国後期における政治機能の地方分権化
→ローマ帝国東西分裂（287）
→キリスト教公認（313）
→西ローマ帝国滅亡（467）

河辺泰宏，図説ローマ，河出書房新社，p20



帝政時代のローマ

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.92

ローマの都市デザインの特徴

・大公共施設の完結した均衡（閉鎖的、独立的）

＝帝国最高の芸術家たちによる記念建造物

宗教建築物と世俗建築物

←大帝国としての繁栄

・公共的な都市広場（フォルム）

政治・経済の中心

計画的なオープンスペース

四周をバシリカ、元老院、神殿などの公共建築や列柱廊で取り囲まれる

屋根のない公共建築

建築の空間をつくりだす芸術。明快な構成力、多様性を統合した建築に

Wikipedia

カピトリーノの丘

カエサルのフォルム

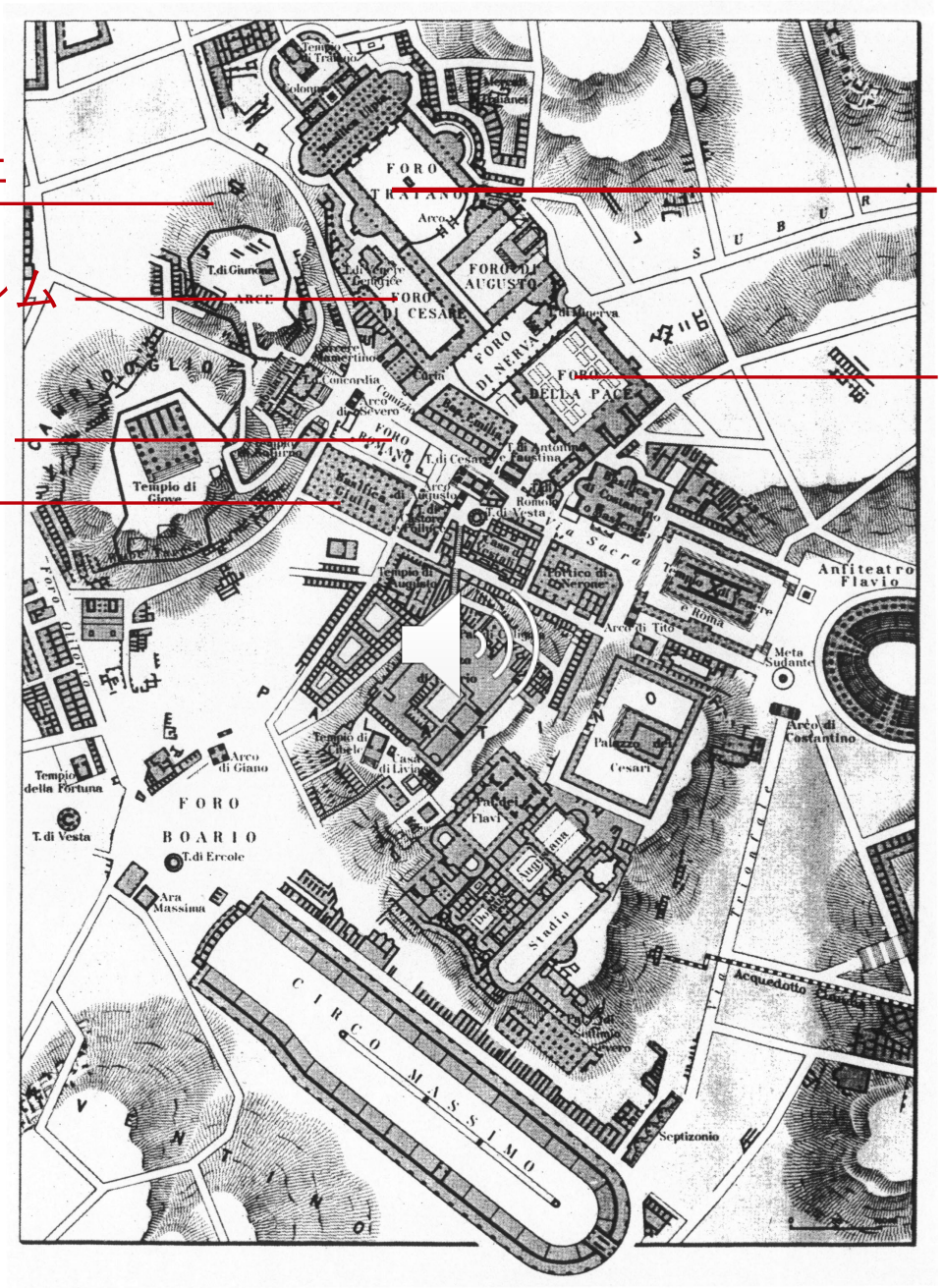
フォロ・ロマーノ

バシリカ

トラヤヌスの
フォルム

アウグストゥスの
フォルム

コロッセオ



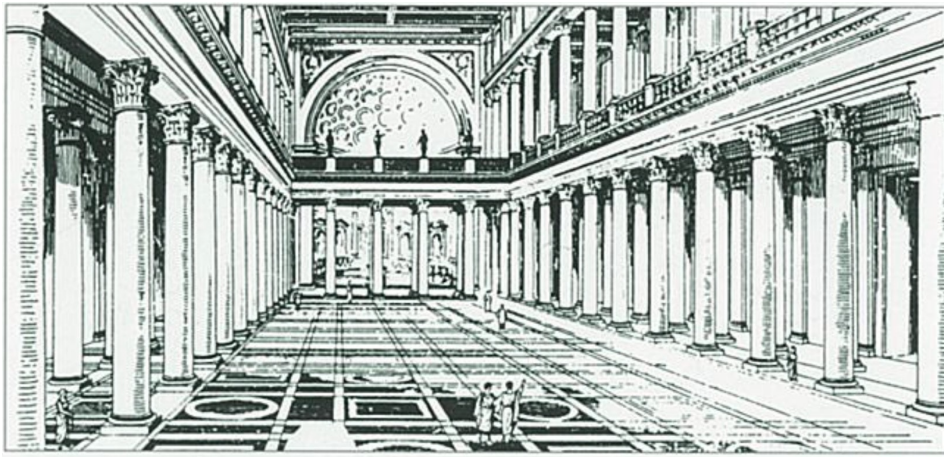
ローマ中心部

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.92

OBREMPVBLICAM RESTITVTAM IMPERIVMQVE POPVLI ROMANI PROPAGATVM
INSIGNIBVS VIRTVTIBVS EORVM DOMI FORISQVE S P Q R

コンスタンティヌスのバシリカ

バシリカ：集会や裁判など多目的に使われた矩形の広間建築

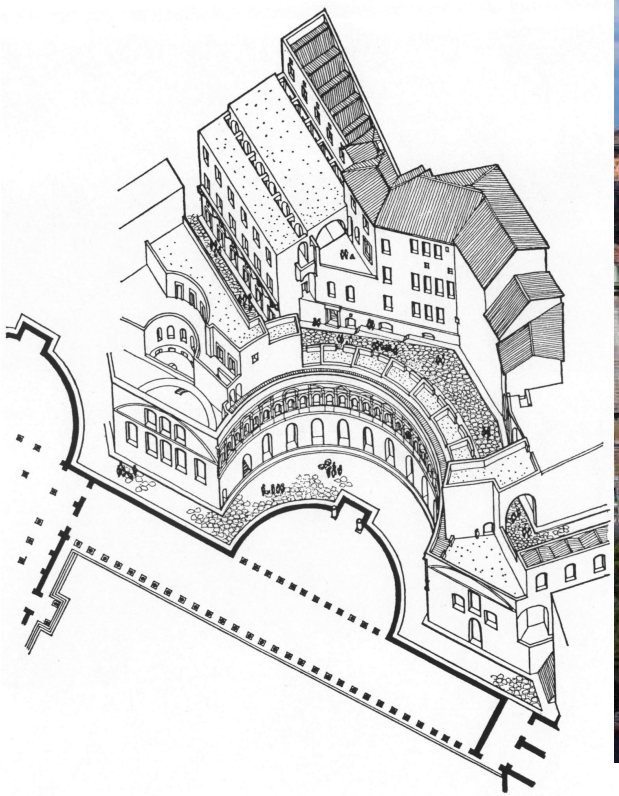


トラヤヌスのバシリカ・ウルピア

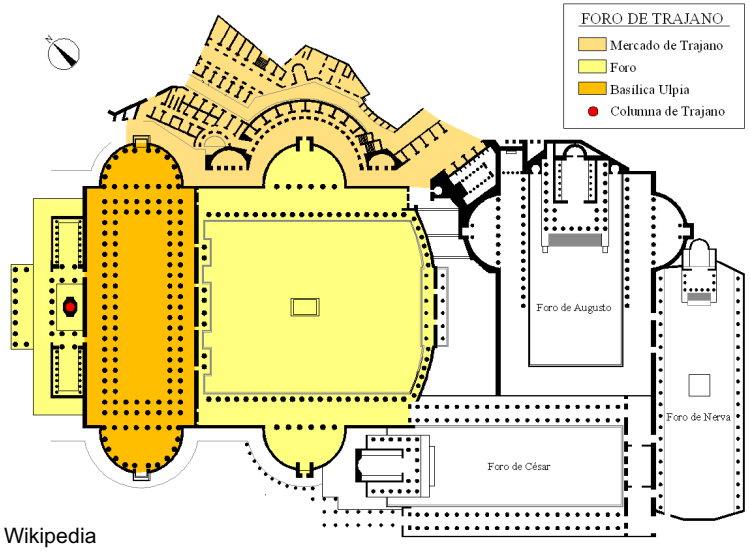
河辺泰宏，図説ローマ，河出書房新社，p26

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.92



Wikipedia

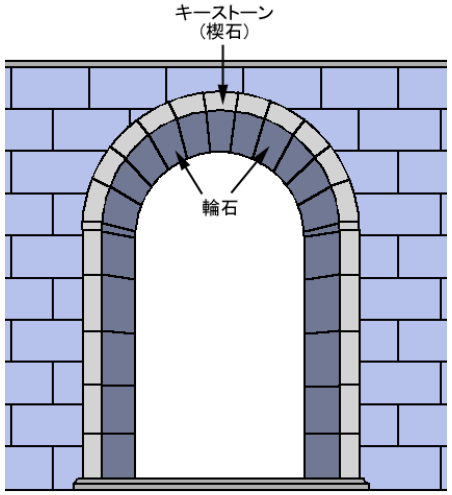


Wikipedia

トラヤヌスのフォルム

巨大建築を支える技術

・アーチ／ヴォールトの構法
開口部、天井、屋根などの構造



Wikipedia

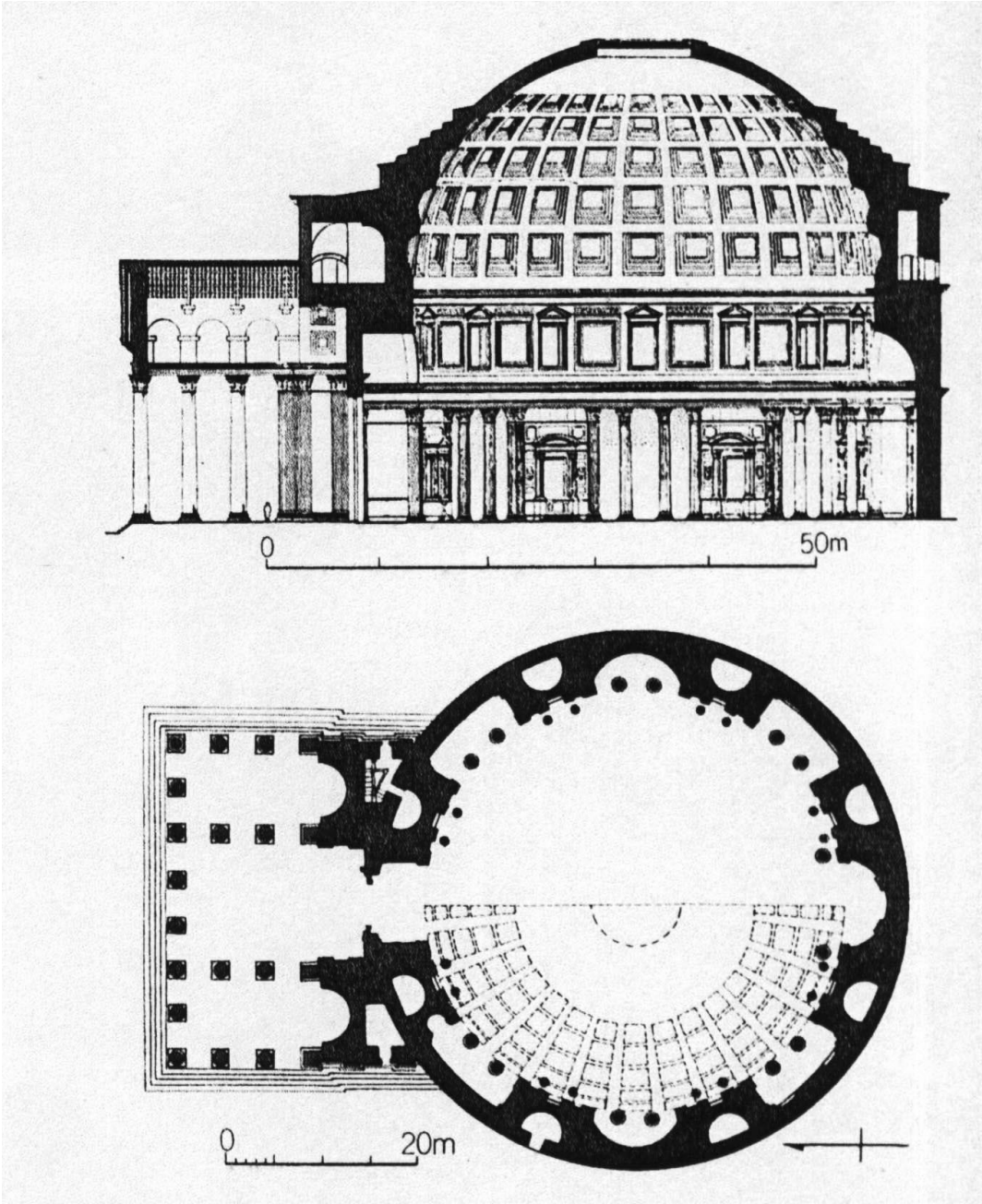
アーチ：開口部の上部を支えるために石やレンガを曲線形に積み上げた構造

ヴォールト：アーチをもとにした石やレンガまたはコンクリート造の曲面天井の総称

コンクリートの発見

ヴィトゥルヴィウス「建築論」建築の『強･用･美』

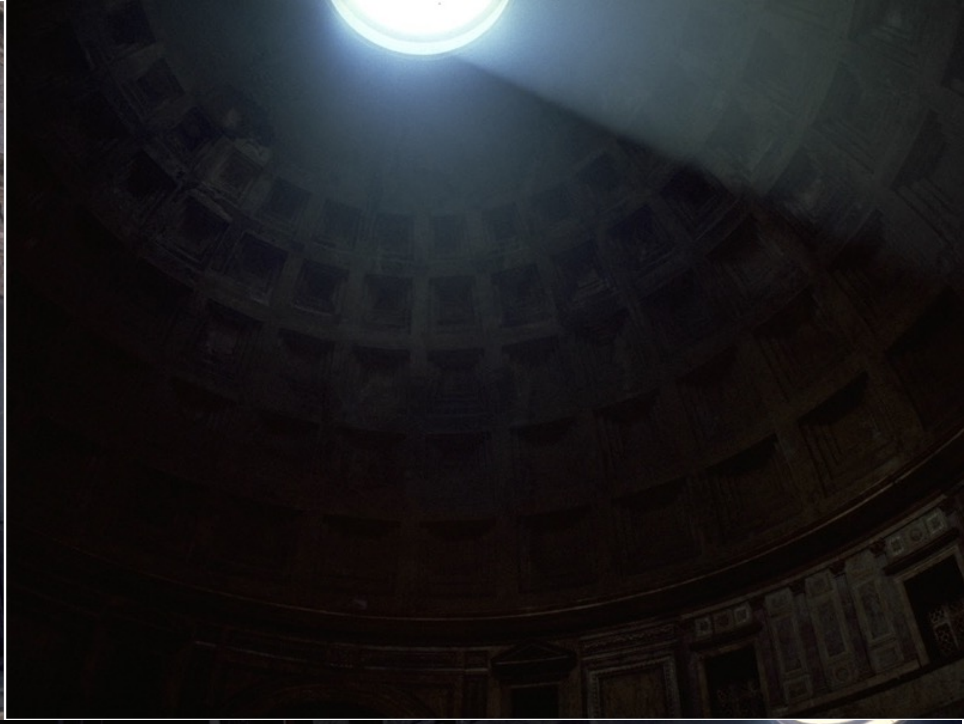
パンテオン Pantheo

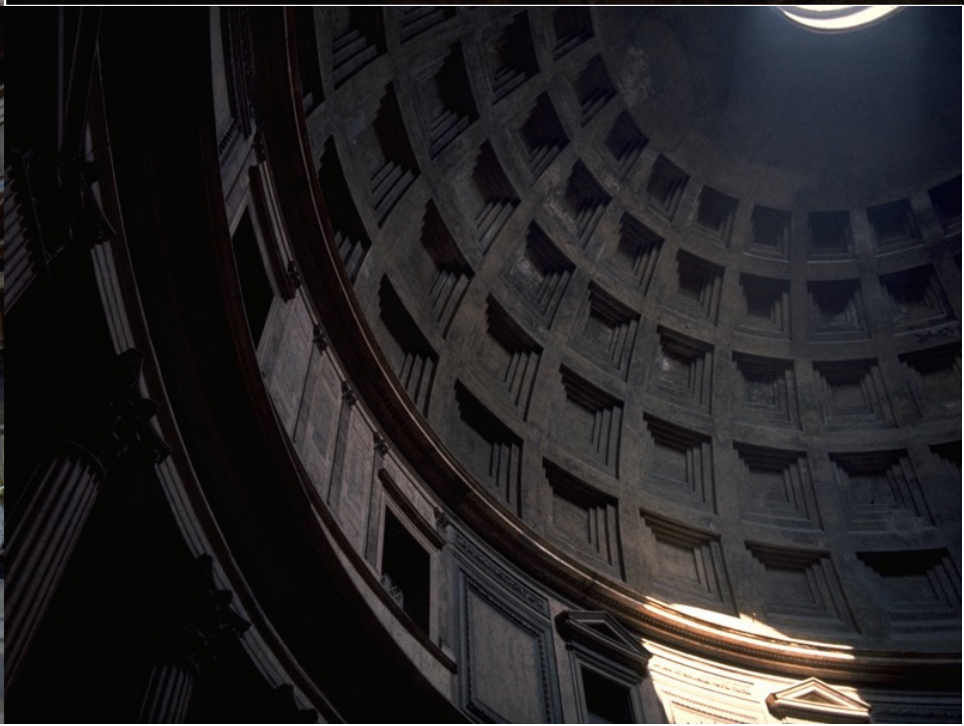


Pantheon

日本建築学会編，西洋建築史図集，彰国社，p.20

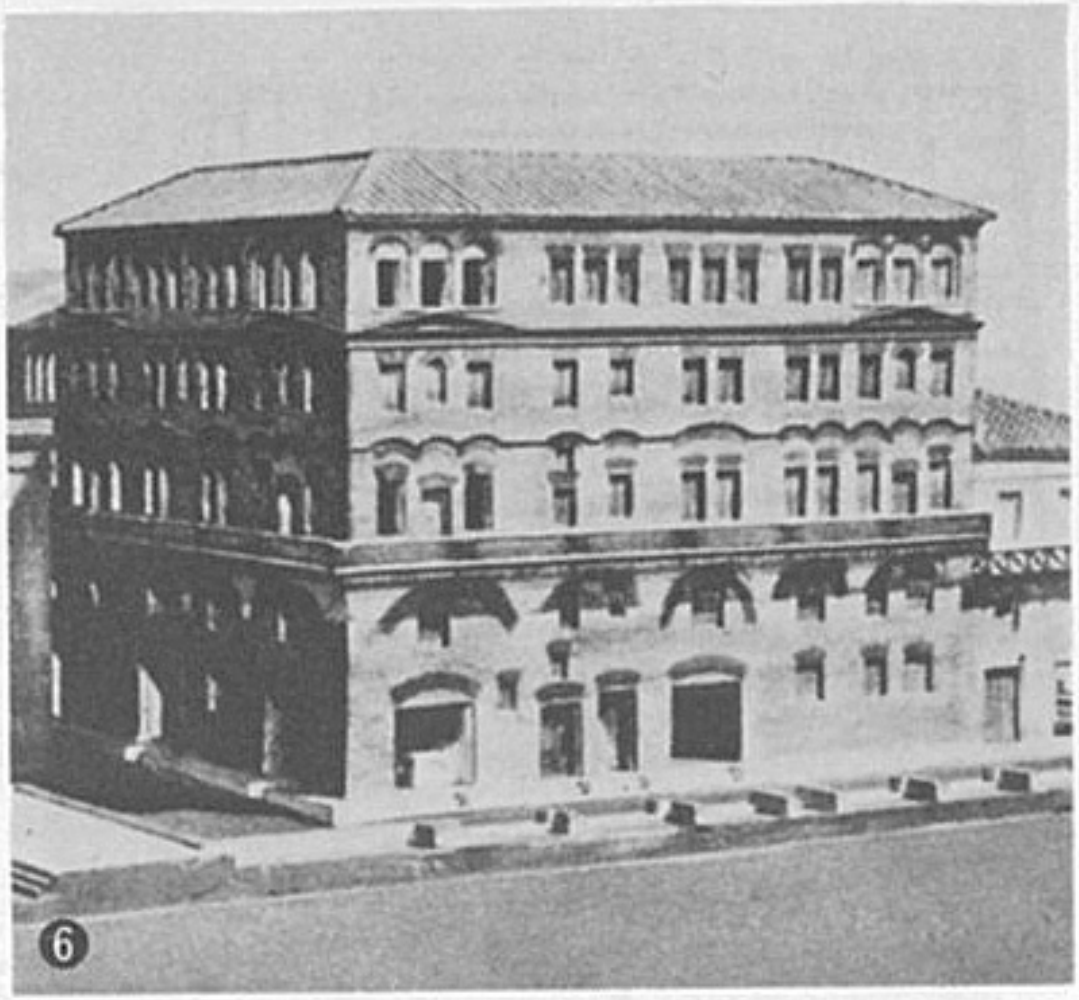
M·AGRIPPA·L·F·COS·TER





コロッセオ
Colosseum

❺



❻

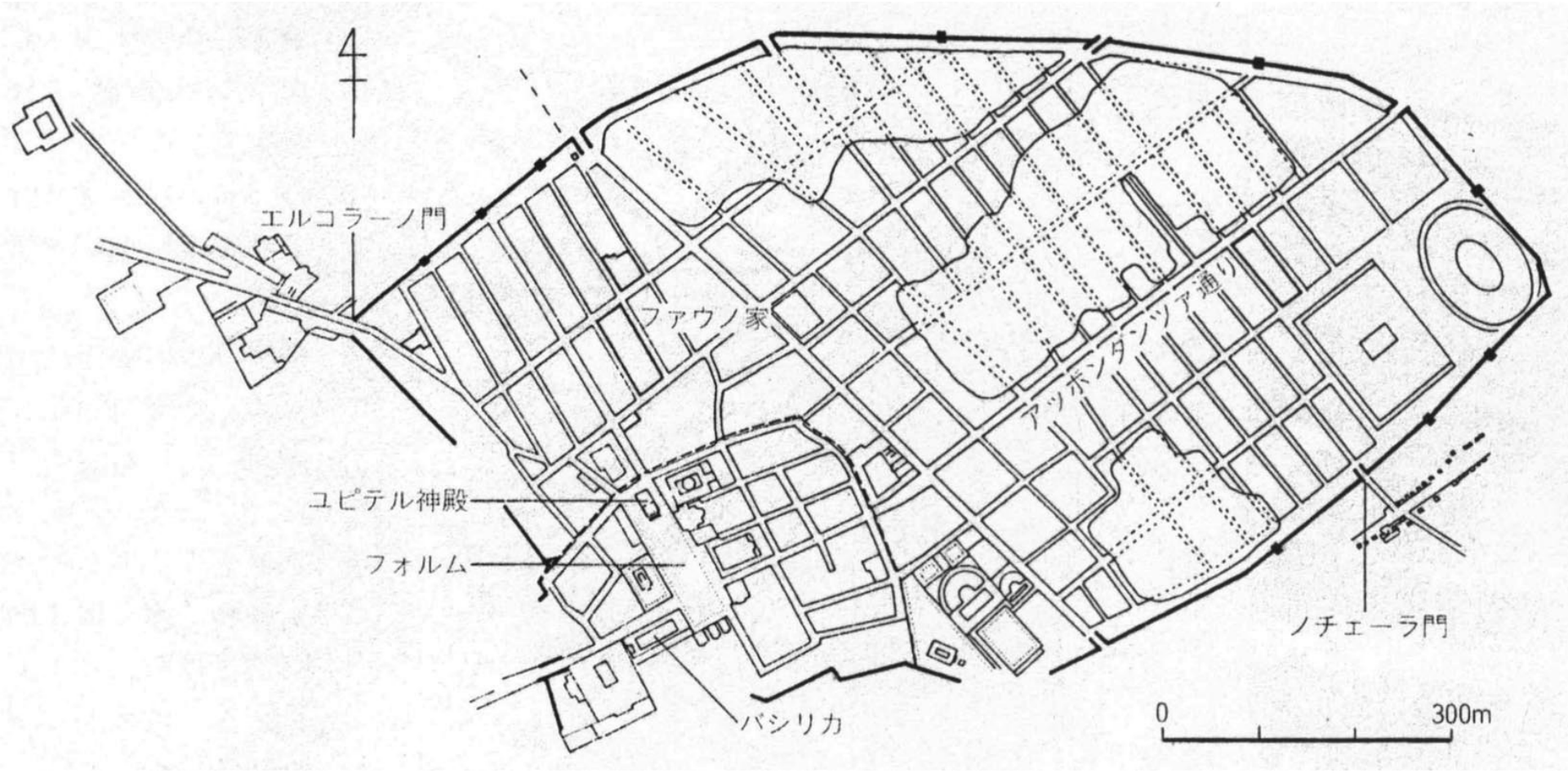
日本建築学会編，西洋建築史図集，彰国社，p.23

集合住宅：
インスラ
Insura

ポンペイ Pompeii （B.C.2C－79）

ヴェスヴィオス火山の噴火で埋まる(79)、１８C以降発掘

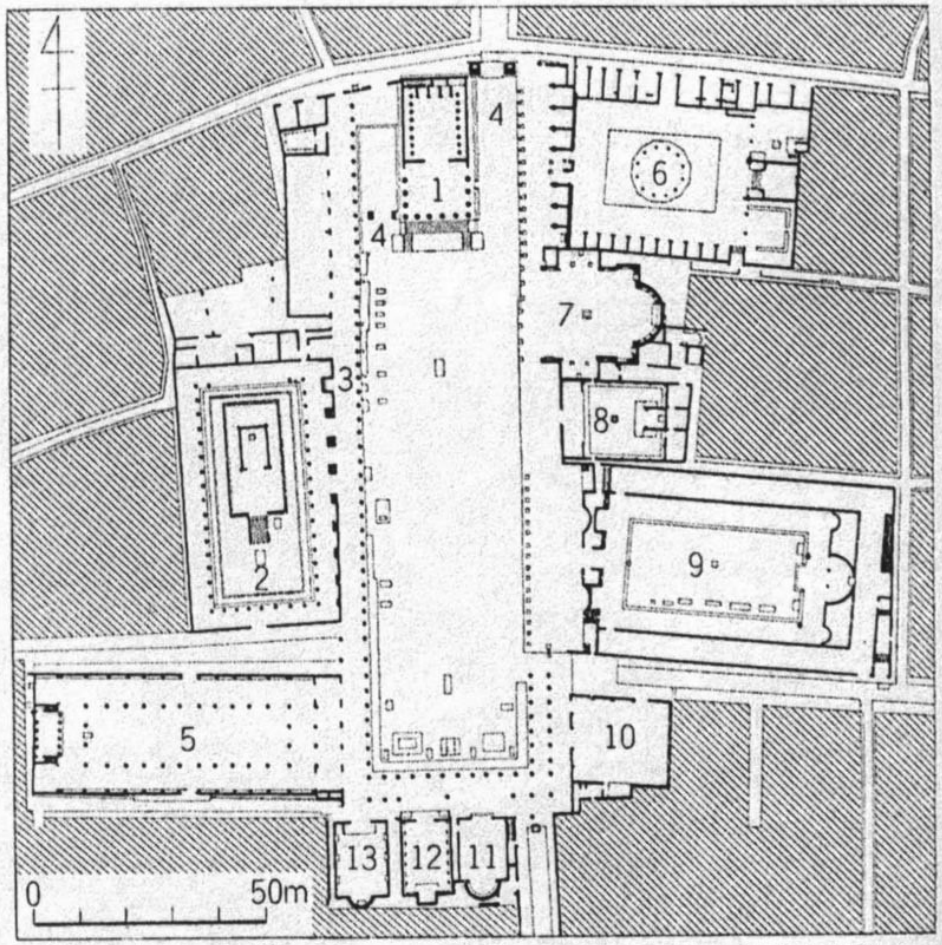
L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房



ポンペイ全体図

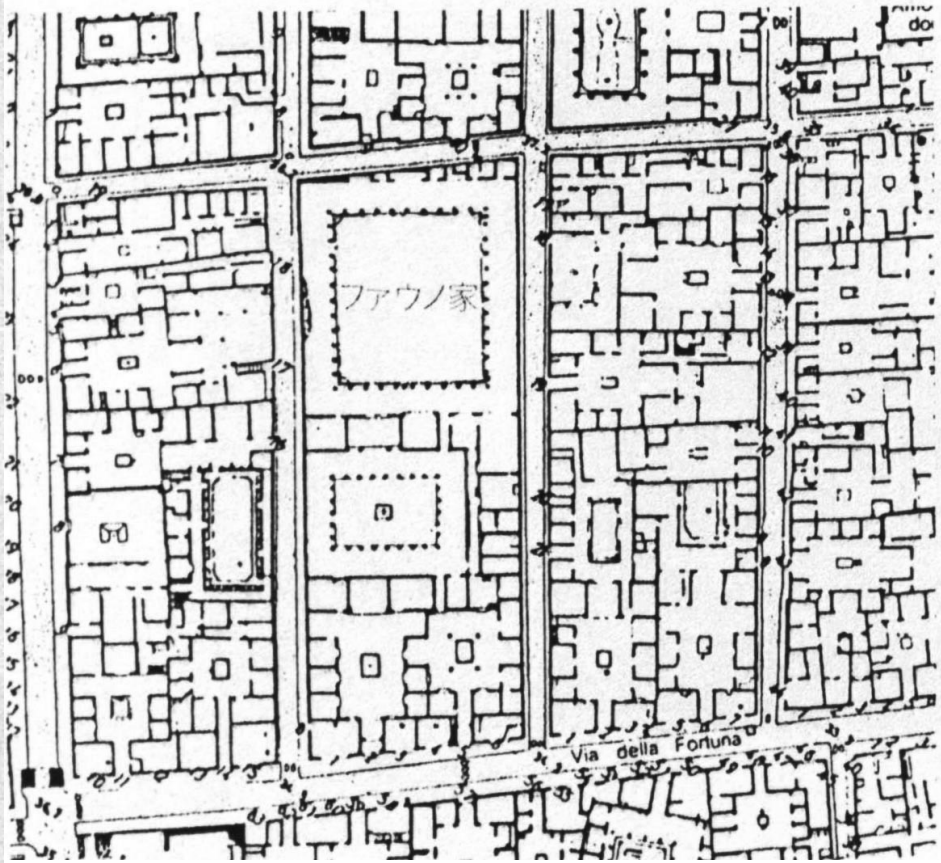
都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.94

都市史図集編集委員会編，都市史図集，彰国社，p.94



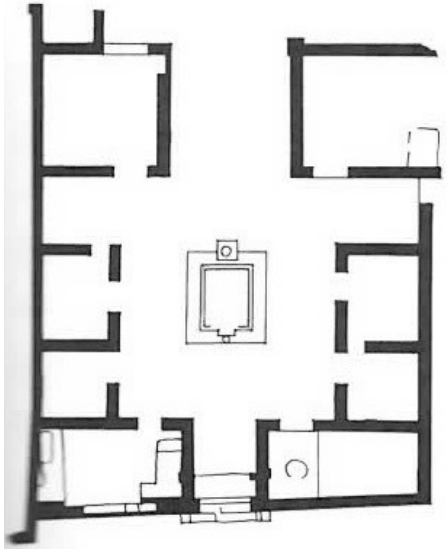
1 ユピテル神殿
2 アポロン神殿
3 度量管制台
4 記念門
5 バシリカ
6 食料品の市場
7 ラレス神殿
8 ウェスパシアヌス神殿
9 エウマキアの建物
10 民会所
11 行政官役所
12 評議会
13 十人会会議場

フォルム平面図

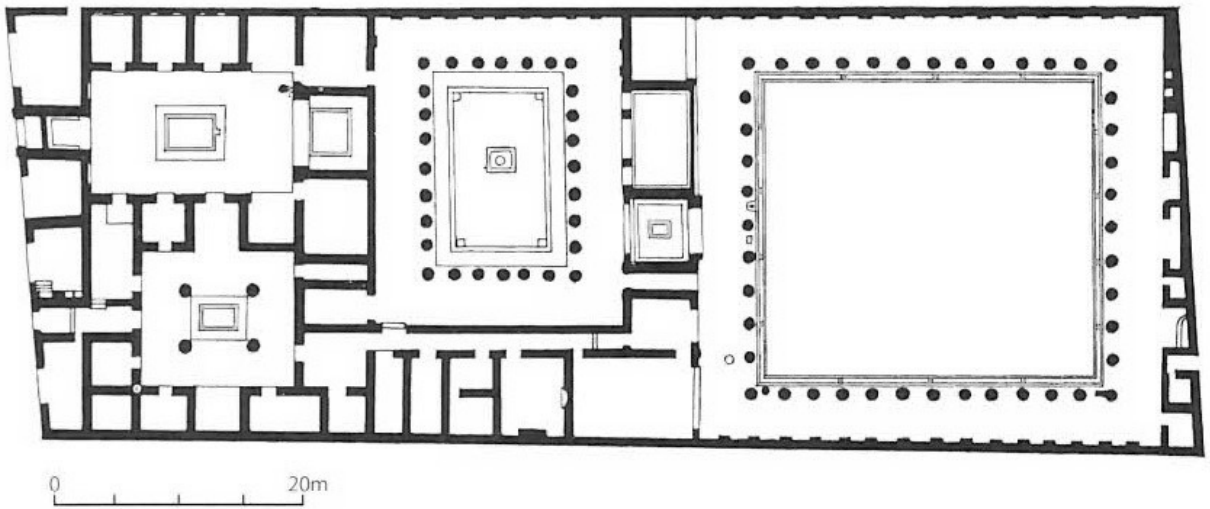


ドムス　Domus

住宅地平面図



❷ポンペイの「外科医の家」平面図（イタリア、前4世紀）



❸ポンペイのファウノの家平面図（イタリア、前2世紀）

独立住宅：ドムス（domus）

日本建築学会編，西洋建築史図集，彰国社，p.23

アトリウム　Atrium

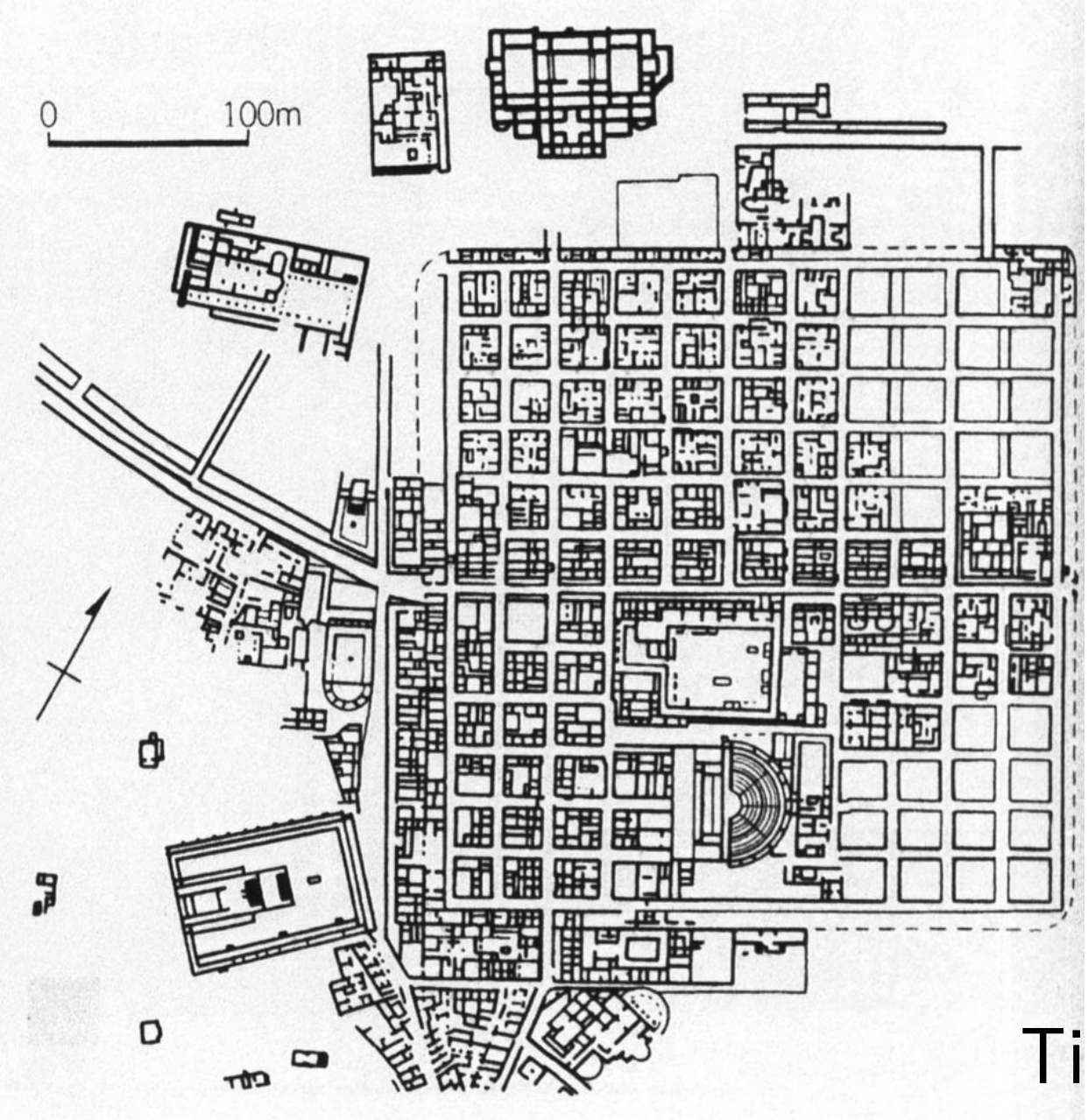
都市基盤

・植民の手法
　a.土木工事：道路、橋、水道、防衛線、
　b.農地の分割、
　c.新都市建設

・街道「すべての道はローマに通ず」
　B.C.312アッピア街道「街道の女王」

・水道　共同の使用のため、個人使用は二義的。
　B.C.312　クラウディウス水道

街路、水道、下水設備などの都市基盤施設や公共施設などを計画的に備えた真の意味での都市が無数につくられた。



植民都市

Timgad, Algeria

L.ベネーヴォロ，都市の世界史１古代，相模書房

Wikipedia

Wikipedia

Wikipedia

Via Appia

Pont du Gard, Nimes